

第3章 計画の目標と基本方針

第1節 目標

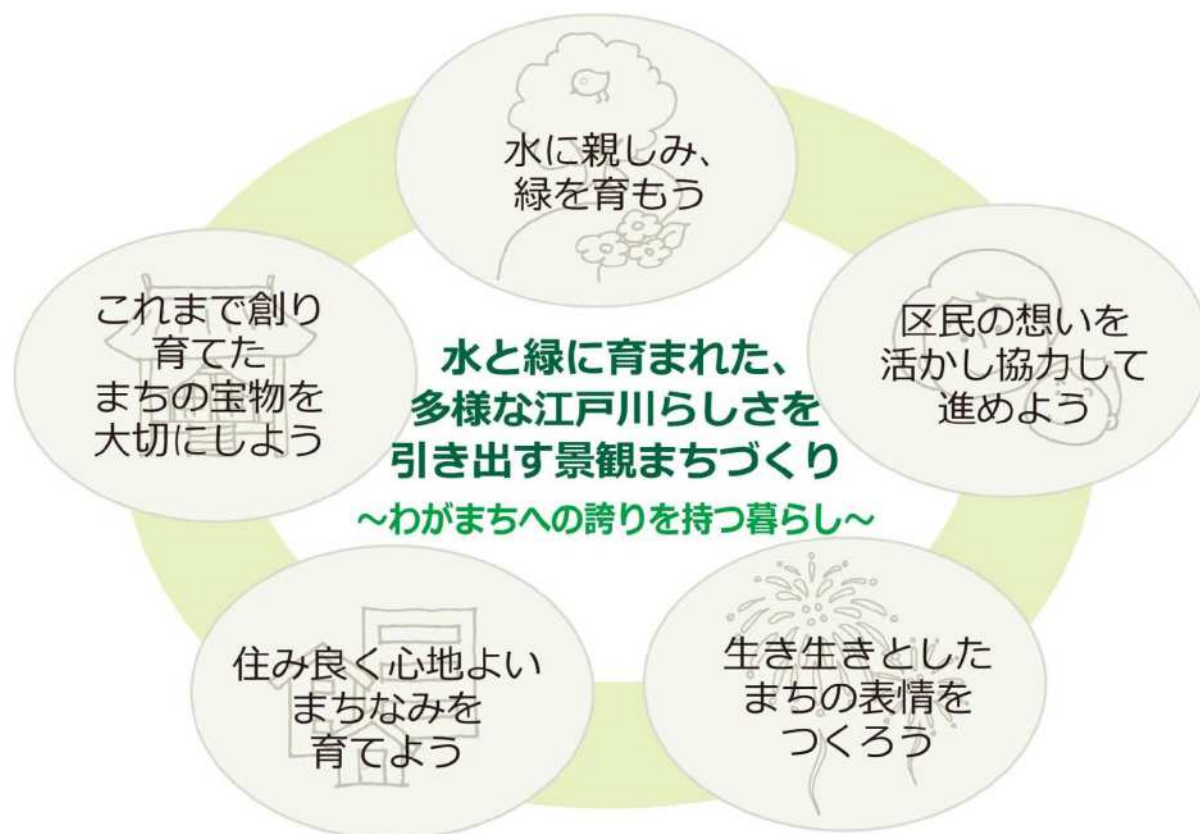
水と緑に育まれた、多様な江戸川らしさを引き出す景観まちづくり ～わがまちへの誇りを持つ暮らし～

まちの基盤が整備された現在、区民一人ひとりが江戸川らしさを発見し、守り、育てる、「水と緑に育まれた多様な江戸川らしさを引き出す景観まちづくり」を通じて、いつまでも住み続けたいと思える、「わがまちへの誇りを持つ暮らし」の実現を目標とします。

第2節 基本方針

目標を実現するため、本区の景観を構成する要素である「水と緑」、「歴史・文化」、「まちなみ」、「活力・にぎわい」、「暮らしと活動」の5つの基本方針を設定しました。景観は、これらの要素が複合的に重なり合って形成されるため、これらの視点を組み合わせるとともに、都市計画や建築等のまちづくりの分野をはじめとして、教育などの様々な分野から多面的に景観まちづくりに取り組みます。

目標と5つの基本方針





1 水に親しみ、緑を育もう

—海と河川、親水空間を核とした、水と緑の景観を広げる—

東京湾の海と大河川とともに、これまで作り育ててきた水と緑は、時代が経った現在、私たちの暮らしの中に欠かせない身近な自然として、本区の住みやすさ、子育てのしやすさを象徴する環境となっています。この豊かな環境を後世に伝えていくため、海と河川、親水空間を核とした、水と緑の景観をさらに広げていきます。

視点-1 水と緑を守り、育てる

- 豊かな水と緑を持ち、風の道を形成している臨海部や大河川、大規模公園などでは、空と水と緑が一体となった景観を守り、育てます。
- 多くの生き物のすみかとなっている干潟やアシ原、樹林などを保全・創出・育成します。
- まちに潤いを与える住宅、商店、事務所の道路沿いなどの身近な緑を拡充します。
- 公園や広場、ポケットパークなどの公共空間を地域の庭として活用し、身近な緑を育てます。
- 街路樹や公園、学校などの緑を大木に育てるため、維持管理を拡充します。

視点-2 水と緑に親しむ

- 水辺の都市として発展してきた歴史をふまえ、水と緑を活かした多様なレクリエーションやイベント等を楽しむ景観を拡充します。
- より水と緑を身近に親しめるよう、アクセスの向上を図ります。

視点-3 水と緑のネットワークを拡充する

- 大河川、親水河川、親水公園、親水緑道や、かつての用水路を活かした緑道など、多様な親水ネットワークを活かし、その沿線のまちなみが一体となった水と緑の景観を拡充します。
- 既存のネットワークを活かし、区内に点在する花の名所や大規模公園などの拠点をつなぐことで、楽しい散歩道や生き物の回廊となる水と緑のネットワークを拡充します。



春の荒川河川敷

2 これまで創り育てたまちの宝物を大切にしよう

—地域と一体となった歴史的・文化的資源の保全・活用を進める—



本区には先人達が築きあげてきた、まちの歴史や文化、暮らしの中で大切にしている「こと、ひと、もの」などの宝物があります。本区の歴史や文化を象徴する資源や、すでに失われてしまった資源などの宝物を引き継ぎ、発展させながら、次世代の人々につないでいく歴史的・文化的資源を保全・活用し、その周辺地域が一体となった修景を進めるとともに、楽しく学ぶ機会をつくります。

視点-1 まちの歴史を知る

- 歴史や文化を知ることから景観まちづくりを進めるため、まちの歴史や文化を伝える機会を増やします。

視点-2 土地の記憶を活かす

- 歴史ある地名や伝説、風習、産業、かつての用水路や旧道、時代の変遷とともに縮小したり、消失してしまった歴史的・文化的資源など、多様な土地の記憶を大切にします。
- 生き生きとした景観としてまちの個性を引き立たせるために、かつての歴史や文化を現在の暮らしの中で活かす機会を増やします。

視点-3 歴史的・文化的資源を保全する

- 寺社や富士塚、屋敷などの文化財や地域に親しまれている建造物や名木・古木などの歴史的・文化的資源を保全します。
- 現存する歴史的・文化的資源とその周辺の雰囲気为一体となった修景を図ります。
- 水閘門などの水辺のランドマークを活かし、水辺の都市として発展してきた本区の歴史や文化を今に伝えます。



善養寺の菊花展

3 住み良く心地良いまちなみを育てよう

—江戸川らしさを感じる地域資源を活かし、個性あるまちなみをつくる—



本区には、まちの成り立ち、周辺環境、土地利用などの多様さから、地域ごとに特色あるまちなみが形成されています。こうした江戸川らしさを感じる地域資源を活かし、個性豊かで快適なまちなみをつくります。

視点-1 江戸川らしさを引き出すまちなみをつくる

- 寺社の集積、旧海岸線、新しい住宅地など、まちの成り立ちや特色をふまえて、それぞれの地域ごとの「江戸川らしさ」を引き出すまちなみを育てていきます。
- 住宅地では、緑豊かな環境の中で日々の生き生きとした生活景観をつくります。
- 工業地では、工業の活気ある景観と周辺の住宅地が調和する景観をつくります。
- 商業地では、多くの人が集まり、にぎわう地域の顔となる景観をつくります。
- 道路や鉄道から見える連続性に配慮した景観をつくります。

視点-2 シンボルとなる資源を保全・活用する

- 暮らしの中で親しまれ、地域のシンボルとなっている寺社の建物や樹林、大木を保全します。
- 利用頻度の高い文化・教育施設や公共建築物、幹線道路などの地域の拠点となっている公共施設は、沿道の修景や色彩の配慮などによる景観の質を高めます。
- 地域の活動拠点であるコミュニティ会館や学校では、生き生きと活動する区民の姿が引き立つ親しみのある景観を育てます。
- 水辺のシンボルである水閘門や橋梁、富士山などのランドマークを活かしたまちなみをつくります。

視点-3 気になる景観を改善する

- ゴミの出し方やペットの散歩マナー、自転車の置き方など、区民、事業者、行政が協働して、生活景観を整えます。
- まちの特性をふまえ、電線や電柱、屋外広告物などの気になる景観を改善に努めます。



北小岩の住宅地のまちなみ

4 生き生きとしたまちの表情をつくろう

－区民や地域産業の持つパワーを活かし、江戸川らしさを引き出す－



笑顔あふれる暮らしや、地域が潤う産業がある元気なまちは、江戸川らしさのあるにぎわいの景観が形成されます。これらの区民や産業のもつパワーを活かして江戸川らしさを引き出し、生き生きとしたまちの表情をつくります。

視点-1 元気な子どもの姿を活かす

- 子どもたちの元気な笑顔がいつもまちにあふれるよう、通学路や公園など子どもたちが安心して遊び、学べる環境やコミュニティを育てます。

視点-2 人が楽しみ、交流する景観をつくる

- 花見や花火、区民まつりなど、四季を感じる多様なイベントを拡充します。
- 多世代の人々が憩える木陰のポケットパークや道沿いのベンチを配置するなど、日常生活の中で人々が楽しみ、交流する景観を育てます。
- 駅前や幹線道路などのまちの顔となる場所では、風格ある景観をつくり、心地良いにぎわいの景観を育てます。

視点-3 地域産業を景観に活かす

- 小松菜や花卉を代表とする農業や金魚養殖、屋形船、造船所など、江戸川らしさのある様々な地域産業をまちの宝物として意識し、景観まちづくりに活かしていきます。
- 地域の身近な商店街などでは、人が集まり、交流するにぎわいのある景観まちづくりを進めます。



多くのボランティアによって支えられている区民まつり

5 区民の想いを活かし協力して進めよう

—区民主体の活動を活性化し、発意と共感による景観まちづくりを進める—



より良い景観は、身のまわりの身近な景観をよりよくしていくことから始まります。まちづくりの中に、「景観」という視点を加え、地域をより理解し、愛着を深めていけるよう、区民主体の活動を活性化し、区民発意と共感による景観まちづくりを進めます。

視点-1 地域力を活かす

- 町会・自治会を中心とする組織をはじめとする様々なボランティア団体、サークル活動団体等の多種多様なコミュニティを活かし、景観まちづくり活動を発展させていきます。
- より質の高い景観形成のために、建築や花卉園芸などの地域の専門家が活躍する場を増やします。

視点-2 身近な景観を改善する

- 日常生活の中で、区民一人ひとりが江戸川らしさや周囲への配慮を大切にしたい、景観まちづくりを進めるための情報を提供します。
- 景観まちづくりの活動の輪を広げ、地域で身近な景観を改善していきます。

視点-3 子どもたちとともに景観への意識を高める

- 自分のまちの江戸川らしさを発見・再確認するなど、誇りと愛着を持てるまちを育てます。
- 江戸川らしさを次世代に伝えていくため、子どもたちとともに景観への意識を高めるために、景観まちづくり学習を開催する機会を増やします。



公園ボランティア連絡会主催の緑のフェスティバル